

テーマ ■ キャリア教育の充実に向けて

● 活用番組 「あしたをつかめ～平成若者仕事図鑑～」

講師 藤川 大祐（千葉大学） 中橋 雄（福山大学）
 発表者 高倉 誠（昭和第一学園高等学校〈東京都〉） 杉岡 道夫（東京都立一橋高等学校）
 制作者 米村 裕子（NHK学校教育番組部チーフ・プロデューサー）
 司会者 熊谷 淳義（東京都豊島区立駒込中学校）
 記録者 岩倉 三好（東京都立南葛飾高等学校）

1 発表概要

職業観・勤労観を育て主体的に進路を選択できるようにする「キャリア教育」は、職場体験学習等の直接的な体験が重要と言えるが、さまざまな職業や生き方についての知識を得ることも必要であり、放送番組を適切に活用することが求められる。「あしたをつかめ～平成若者仕事図鑑～」を中心に、キャリア教育の充実に向けて放送番組をどのように活用すればよいかについて交流した。

最初の数分間、司会進行（中橋講師）から発表の趣旨説明と時間配分の説明があった。

次に約40分間、実践発表1（高倉）があった。「あしたをつかめ」は、職業の面白さや職業を実感してもらうのに良い番組である。2年生の総合的な学習の時間の「ジャーナリズム」という内容の中で利用している。最初、番組内容を記入させるワークシートを作らせたが、分析に力点がいき、無理があった。今年、番組から職業を分析する進路広告作りという形に変えた。発表では、「あしたをつかめ」の介護職員の映像と「10min.ボックス」の農業の映像で、授業での用い方、進め方の説明があった。

さらに、約35分間、実践発表2（杉岡）があった。「あしたをつかめ」の番組の授業での利用を充実させる。他のシリーズとの使い分けや生徒にふさわしい番組の選択、積極的に将来について考える番組の授業利用を目指した。「あしたをつかめ」「10min.ボックス」「プロフェッショナル」を利用している。発表では、トップランナーの映像で、番組の使い方、生徒の受け止め方や授業での活用の仕方を説明した。ディレクターや販売員の映像で、職業とは何か？ 主体的な職業選択の力を育てる授業の実践が報告された。

2 研究協議内容

最初の約10分間、制作者から、「あしたをつか

め」をどのように作っているかのプロセスが紹介された。地方の若いディレクターが中心になり、悪戦苦闘し作っている。なかなかない職業でなく、身近で実際になれる職業を紹介する。取材対象も若手にし、素晴らしさだけでなく、苦しい所、つまづく所もいれる。仕事でキラッとした時間を紹介する。仕事の紹介だけでなく、仕事って何だろうと考えさせる。

次に約15分間、司会（中橋講師）の進行で意見交流をした。番組利用者の中学校から意見があった。1年で4番組を使い、職業を考えさせるのに効果があった。2年の宿泊で、番組を見せ、職業体験につなげた。総合的な学習の時間で番組の利用が効果的である。他の中学校からも意見が出た。「プロフェッショナル」の発表を聞いて、職業紹介の部分が数分であり、中学校でも利用できる。「あしたをつかめ」は長く、そのままは使いにくい。「10min.ボックス」は短く、使える。番組ビデオなど利用しやすい環境を整えてほしい。

3 指導・講評

最後に、藤川講師から指導・講評があった。発表のように、放送番組を活用したキャリア教育をさらに進めてほしい。発表の中で、複数の仕事を調べたり、仕事の共通性を探ってみることも大切である。放送番組を見せる順番を考えることが活用に重要である。「10min.ボックス」などのメディアを通じた活用と実際に職業人に接して知る機会が必要である。職業について調べる時、放送番組をもっと活用してほしい。

4 まとめ

全国の小、中、高等学校から多くの先生が集まり、活発に意見交換が行われた。この交流会が、キャリア教育で放送番組を活用するのに、少しでも役立つ機会になったらよいと考える。